

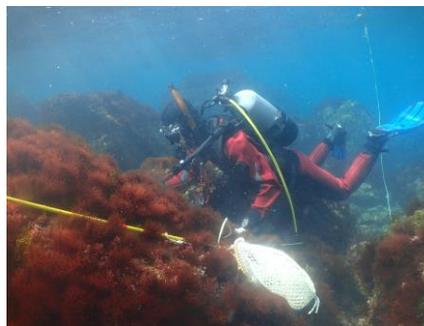


令和3年4月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

テングサ作柄調査が始まりました

令和3年の漁期に向けたテングサ作柄調査が3月10日の白浜地区の調査から始まりました。今年度は伊豆地域の13地区の35地点で潜水調査を実施する予定です。調査では、目視で漁場周辺のテングサの状況を観察するとともに、1㎡の範囲のテングサを採取して着生状況を把握します。調査は4月下旬まで実施する予定です。既に調査が終了した伊豆東岸の調査点では、昨年と比較して同程度か、場所によっては着生量が増加している漁場も確認されています。特に下田地区の須崎地先などでは、着生量が大きく増加していました。今年度のテングサ作柄予察は全地区の調査が終了した後、5月中旬頃にお知らせする予定です。

解説：テングサの利用：テングサを煮出した液を固めたものが「ところてん」、ところてんを凍結、脱水して乾燥したものが寒天になる。



←テングサ漁場での採り取りの様子



→ 須崎地先の一面にテングサが着生した漁場

河津でしずおか森の力体験ツアー開催

3月14日に河津町内で県民参加の体験ツアーが行われました。豊かな森から出た養分が川を通じて海に流れ、豊かな海を育むなど、森と海は深いつながりがあることが知られています。森と海のつながりや、県が行っている森の力再生事業を学ぶ今回のツアーに、県内の11組28人の参加がありました。海ではイセエビ刺し網の操業見学やサザエの網外し体験、森では伐採作業の見学や丸太切りの体験を楽しんでいました。自然の大切さを肌で感じてもらえたと思います。



↑ 網外し体験（左）と木こり体験（右）

下田市水産海洋学講座で講演

下田市教育委員会主催の水産海洋学講座が3月19日に開催され、「海の資源を増やす」という題目で分場が行っているテングサ、マダイ、キンメダイ研究の近年の成果について講演を行いました。聴講者から地球温暖化の影響やテングサ水揚量の全国順位が下がっていること等について質問があり、伊豆分場の研究に興味をもっていただけたのではと感じました。なお、本講演はYouTubeで公開されていますので、誰でも見ることができます。



↑ 感染予防対策をとって開催されました

4月の予定 ●引き続き、テングサ作柄調査を行います ●熱海地区でヒラメ中間育成が始まります ●キンメダイの親魚採捕を行います

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。